

関連項目：教育活動プラン①

# おそうじ名人リボンの活用等賞賛の機会を増やし成就感を持たせる

## 目的

清掃活動に重点をおき、黙って清掃できた児童をお掃除名人としてリボンを与えて賞賛し、全校で目標人数を突破したらノー掃除デーを一日作って遊ぶ時間にして心を合わせて働く喜びを味わわせる。また、清掃時間以外の時間にも広げて美化活動に進んで取り組む態度を育てようと考えました。

## 内容

### ● クリーン大作戦開始

学校の重点取り組みとして清掃活動の充実を決め、まず、職員自ら職員室の机上整理や担当場所や美化改善に取り組み始め意識改革が始まる。整備委員会から「学校をきれいにしよう、だまってそうじをしよう」と全校集会で呼びかけ、教師は、清掃のしかたを個別に教えた。



### ● 掲示で意欲化



自主的美化活動を促す「いいな（117）ボランティアデー、毎月1日、11日、17日」を設定し、ボランティア活動を自主的に行う日にして、校内のゴミ拾いや除草などを行うようになった。「やさしさの花をさかせよう」を合い言葉にボランティアの日に行ったよいことを評価して掲示して意欲化を図った。道徳や学級指導で心の耕しとつないだボランティア活動の意味と実践化を図った。

### ● みがこう心の玉・・・新たな合い言葉

清掃は、単にきれいにする義務行為ではなく、こころを育て立派な人になる尊い行為であることを3つのこころの玉みがきと称して、全教室に掲示して視覚と聴覚で印象づけ、黙って清掃する子を学級や全校で賞賛した。

- がまん玉・・・おしゃべりしたいのをがまんする心
- 見つけ玉・・・汚れているところを見つけてきれいにしようとする心
- 気づき玉・・・言われなくても友達の助けてほしい気持ちを察する心



### ● おそうじ名人リボンでより高いモラルと全校共通目標化でうねりの創出

校長先生から、だまって一所懸命そうじをする子にリボンを付けてもらうことによって、友達から羨望のまなざしや家族の関心と賞賛や励ましをもらい、人が見ていようといまいと黙って清掃する子が着実に増えた。

リボンが100人を超えても、しゃべってしまったという子がかなりいたため、全校生でリボンを200人にしようと呼びかけた。目標達成したら「ノーそうじデー」の日を一日作りそうじの時間を遊ぶ時間にして、その日は長時間の昼休みで好きな遊びができるようにした。すると、200人はまもなく達成してノーそうじデーに喜々として思い切り遊ぶ子どもたちの姿がみられた。さらに、目標を250人にあげて取り組んだ結果、ペースは遅くなったが、担任や担当の賞賛や励ましだけでなく、子ども同士で励ましたり注意したりする姿が目につき、目標を達成して楽しく遊ぶ姿が見られた。さらに、目標を300人にアップし、毎日帰りの会でリボンの人数を調べて黒板にリボンを付けた人数を記入した。（おしゃべりをするリボンを返すようにしている）



## 成果

こうした取組をすることで、黙って清掃する児童が増えてきました。昨年より1学期は、清掃時間のおしゃべりがかなり減りました、2学期になると少し後退しました。そこで、お掃除名人リボンを渡し、リボンへのあこがれを持たせながら「全校で〇〇人を達成しよう」という目標を立てて達成→より高い目標設定と達成→・・・のサイクルで年度末には、全校の3/4近くがリボンを付けました。